

2017年2月期 第1四半期 決算補足資料

2016年6月30日
株式会社アダストリア

I. 営業報告

・新コーポレートアイデンティティ	3
・ブランドトピックス	4
・新カテゴリー・新規事業開発	5
・WEB事業	6

II. 2017年2月期 第1四半期業績

・連結損益計算書	8
アダストリア単体	10
海外事業	11
・連結貸借対照表	12
・連結通期予想	13



I . 營業報告

新コーポレートアイデンティティ

コーポレートカルチャー

答えを探し続ける、という答え。

企業理念

なくてはならぬ人となれ なくてはならぬ企業であれ

社名ロゴ

A D A S T R I A
—

ミッション

ファッションがもたらす喜びを
世界中の人たちへ届けるために、
マルチブランド戦略をグローバルに展開し、
すべてのお客さまの新たな答えを生み出し続けます。

パーソナルカラー



行動規範

一人ひとりがお客さまの立場で考え、答えを探し続けます。
変化を恐れず、スピードを重視して挑戦を続けます。
それぞれの個性を尊重し、刺激し合いながら成果を生み出します。
社会の一員という自覚を持ち、自分を律しながら行動します。
ファッションを、仕事を、そして人生を楽しみます。

A D A S T R I A

Copyright © 2016 Adastia Co., Ltd. All rights reserved.

3

はじめに、6月1日に発表いたしましたCIの変更についてご報告いたします。

当社は、1953年の創業以来、市場を取り巻く環境に柔軟に対応しビジネスモデルを変えながら、成長を続けてまいりました。
2010年に「チェンジ宣言」として、OEM/ODMに頼ったビジネスモデルから脱却し、自ら企画・生産を手掛け、垂直統合に挑戦していくことを宣言。
試行錯誤の結果、お客さまに誇りを持っておすすめすることができる商品も生まれてまいりました。
「グローバルマルチブランド ファッションSPAカンパニー」を目指すことを改めて決意したこのタイミングで、アダストリアのあるべき姿を考え、CIを一新するに至りました。

アダストリアがどんな会社で、何が強みで、何を指すのか、それらを一つ一つ紐解いた時、導き出されたキーワードは『変化』でした。
変化を恐れず、その時その時のお客さまにとって最適な答えを探して挑戦し続ける、「答えを探し続ける、という答え。」という言葉が私たちのコーポレートカルチャーを表現しています。

社名ロゴには、ADASTRIAのAにアンダーラインを引いて、ANSWERのAをかけ、このコーポレートカルチャーを表現しました。
時代や感情、個性に応じて変幻自在に色を変えることができるこのアンダーラインには、常に変化し、進化し続けようという強い意思が宿っています。

企業理念「なくてはならぬ人となれ なくてはならぬ企業であれ」は、創業者が創業当時から大事にしてきた言葉です。
「あなたがいるからここに来たよ」「あなたがいて安心です」「期待しています」と言われる企業・人であり続けたいという想いを込めています。
ミッション、行動規範も一新し、我々はまた新しい一歩を踏み出しました。

ブランドトピックス

GLOBAL WORK

売上高 : 89億円 (前年同期比110.7%)

- 自社生産機能活用による主力商品開発の継続
- 新TVCMを放映

“FEEL IT=感じるものだけが、本物”



niko and ...

売上高 : 55億円 (前年同期比111.7%)

- 自社生産のアパレル商品力向上
- niko and ... FURNITURE&SUPPLY展示会

3月中旬 旗艦店にて開催。他業界からも注目度が高い。



織研新聞社主催 第18回ディベロッパーが選ぶテナント大賞

GLOBAL WORK 「大賞」「ベストセラー賞」受賞

JEANASIS 「カムバック賞」受賞



A D A S T R I A Copyright © 2016 Adastria Co., Ltd. All rights reserved.

4

基幹ブランドであるグローバルワーク・ニコアンドは今年度に入っても、引き続き順調に推移しております。

グローバルワークの売上高は前年同期比110.7%となる89億円、
自社生産機能活用による主力商品開発を継続していくとともに、前年度のタレントを使ったTVCMから、
ブランドとして伝えたいメッセージ“FEEL IT=感じるものだけが、本物”を全面に打ち出した
新TVCMを放映しました。

ニコアンドの売上高は前年同期比111.7%となる55億円で、
自社生産のアパレル商品力を向上させるとともに、
3月にはオリジナル家具ブランドである、ファニチャーアンドサプライの展示会を
原宿の旗艦店niko and ... TOKYOで開催しました。
インテリア業界誌などから多数取材申し込みをいただくなど、他業界からも注目していただいております。

また前年度における当社ブランドの躍進ぶりが評価され、
織研新聞社主催の第18回ディベロッパーが選ぶテナント大賞において、
グローバルワークが「大賞」「ベストセラー賞」、ジーナシスが「カムバック賞」を受賞いたしました。
2期前にはニコアンドが「大賞」を受賞しており、このような賞をいただくことが
ブランド間でよい刺激となっております。

新カテゴリー・新規事業開発

■ カフェ・カンパニー株式会社とのJV設立の基本合意を発表



昨日、株式会社カフェ・カンパニーと合併事業を立ち上げる基本合意書を締結したことについて、発表させていただきました。

横浜ベイクォーターのニコアンドに併設の「ワイアードキッチン&ニコ」の運営などカフェ・カンパニー社とは以前から、様々なかたちでビジネスをご一緒しており、今回はさらに一歩踏み込んで合併会社を設立することとなりました。

カフェ・カンパニー社の飲食事業のノウハウに、当社がアパレル事業で培ったチェーン運営ノウハウを融合し、新しいライフスタイル事業を展開していきます。

事業の柱としては、カフェ・カンパニー社が展開してきたワイアードカフェ及びワイアードキッチン事業、当社既存ブランドと飲食の融合業態、そして新業態が3つの柱となります。

詳細な事業計画は9月末にお話しさせていただきます。

WEB事業

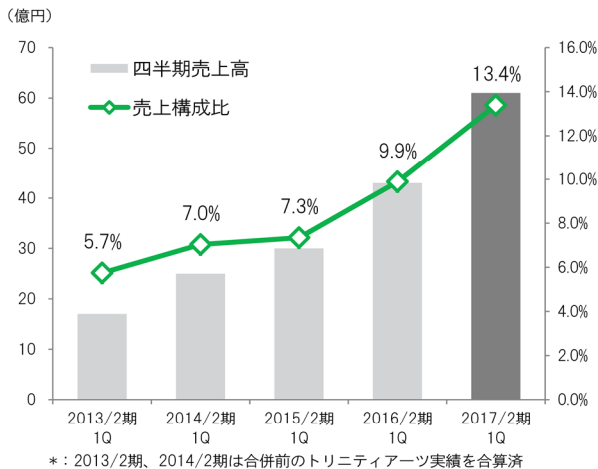
売上高 : 61億円 (前年同期比141.8%)

WEB構成比 : 13.4%

自社EC[.st]会員数 : 約460万人

■ CRMツールの強化

これまでの購買・行動履歴に加え、店舗スタッフがアップロードするスタイリング事例から導き出した「理想的なスタイルの法則」を掛け合わせ、よりパーソナライズ化されたレコメンデーションを実現。5月よりテスト開始、今夏実装予定。



第1四半期のWEB事業売上は61億円、前年同期比141.8%と引き続き高い伸びを示しており、国内売上高に占めるWEB売上比率は13.4%となりました。

背景として、アパレル小売業界も引き続きオンライン化が進んでいることに加え、ブランド力・商品力・オペレーション力の向上、そしてCRMツールの強化が挙げられます。

当期より過去の購買履歴・WEBサイト上でのページ閲覧行動の履歴から、お客さまごとに最適な内容にカスタマイズした情報を、メールやラインで配信するサービスを実施し、成果が上がっております。

さらに5月からは、当社の店舗スタッフがアップロードする年間約4万体制以上のスタイリングデータから独自の手法で抽出した「理想的なスタイルの法則」をそこに掛け合わせることで、よりパーソナライズ化されたおすすめ情報をお届けする取り組みを試験的に導入しており、こちらは今夏にも本格的にスタート予定です。

Ⅱ. 2017年2月期 第1四半期業績

連結損益計算書

(百万円)

(連結)	2016/2期 1Q		2017/2期 1Q		
	実績		実績		
		構成比		構成比	前年比
売上高	47,394	100.0%	48,552	100.0%	102.4%
売上総利益	28,787	60.7%	29,727	61.2%	103.3%
販管費	24,027	50.7%	24,502	50.5%	102.0%
広告宣伝費	1,729	3.7%	1,728	3.6%	99.9%
人件費	8,104	17.1%	8,366	17.2%	103.2%
設備費	9,590	20.2%	9,570	19.7%	99.8%
のれん償却費	563	1.2%	546	1.1%	96.9%
その他	4,039	8.5%	4,291	8.8%	106.2%
営業利益	4,759	10.0%	5,224	10.8%	109.8%
アダストリア単体 *1 (のれん償却前)	5,334	-	5,905	-	-
海外 *2	▲ 305	-	▲ 407	-	-
N9&PG *3	▲ 9	-	-	-	-
アダストリア・ロジスティクス *3	-	-	156	-	-
経常利益	4,928	10.4%	5,284	10.9%	107.2%
純利益	2,337	4.9%	2,983	6.1%	127.6%
EBITDA	6,778	14.3%	7,113	14.7%	104.9%
減価償却費	1,455	3.1%	1,342	2.8%	92.2%
のれん償却費	563	1.2%	546	1.1%	96.9%

*1：2016/2期 下期より、N9&PGの生産部門（旧ナチュラルライン）を統合。2016/2期 1Q実績には生産部門を含まず。

*2：海外5法人(香港・台湾・中国・韓国・シンガポール)の単純合算。

*3：2016/2期 下期より、N9&PGの物流部門（旧ボジック）がアダストリア・ロジスティクスに商号変更。

連結損益計算書のご説明をいたします。

当第1四半期は、前年度から引き続いて商品力・販売力の向上、WEB事業の伸長が続き、2期連続で過去最高益を更新いたしました。

売上高は、海外売上高は若干の減収となりましたが、国内既存店売上高前年比が104.7%と好調に推移した結果、前年同期比102.4%の485億円となりました。ブランド別では、グローバルワーク、ニコアンド、ジーナシスなどが好調に推移しております。

売上総利益率は、61.2%と前年同期比+0.5P改善しました。期初在庫の内容、金額ともに適性な水準でスタートしており、期中の販売も順調に推移したことから、値下げ率が低下しました。

販管費率は、50.5%と前年同期比▲0.2P低下しております。広告宣伝費はこの春夏も大型TVCMはグローバルワークに集中し、金額、対売上比でもほぼ前年並みとなりました。

設備費は、前期より出店も厳選していることから減価償却費が減少していること、WEB売上比率の上昇等によって賃料比率が低下していることにより、設備費率は▲0.5P低下しました。その他販管費の対売上比率が+0.3P上昇していますが、カード手数料やWEB売上の増加による小口配送料等によって増加しました。

この結果、営業利益は前年同期比109.8%となる52億円となりました。営業利益率は10.8%、EBITDAマージンは14.7%とそれぞれ前年同期比+0.8P、+0.4Pと引き続き収益性は改善しております。

特別損失として、店舗の減損損失18百万円と熊本地震関連の損失61百万円を計上しました。法人税率の低下等の要因により、純利益は29億円、前年同期比127.6%と税引前利益の増益率を上回る増益を達成しました。

過去最高益を2期連続で更新 — 商品力・販売力の向上、WEB事業の伸長が継続。

- **売上高：485億円**（前年同期比102.4%）
国内既存店売上高前年比104.7%と好調持続。
- **売上総利益率：61.2%**（前年同期比+0.5p）
適正な期初在庫でスタートし、販売も好調に推移したことにより、値下げ率が低下。
- **販管費率：50.5%**（前年同期比▲0.2p）
 - 広告宣伝費：3.6%（同▲0.1p）大型TVCMはグローバルワークのみ。
 - 設備費：19.7%（同▲0.5p）WEB売上比率上昇等の要因により、賃料・減価償却費率が低下。
 - その他：8.8%（同+0.3p）カード手数料や小口配送料等の増加。
- **営業利益：52億円**（前年同期比109.8%）
営業利益率10.8%（前年同期比+0.8p）、EBITDAマージンは14.7%（同+0.4p）と引き続き収益性が改善。
- **純利益：29億円**（前年同期比127.6%）
熊本地震関連の損失61百万円を特別損失として計上。
税率の低下により、税引前利益の増益率を上回る増益を達成。

アダストリア単体

(百万円)

	2016/2期 1Q	2017/2期 1Q	
	実績 *1	実績	
		前年比	
売上高	44,025	46,222	105.0%
(既存店前年比)	(103.3%)	(104.7%)	-
グローバルワーク	8,125	8,992	110.7%
ローリーズファーム *2	6,313	6,137	97.2%
ニコアンド	5,006	5,591	111.7%
スタディオクリップ	4,664	4,853	104.1%
レプシム	3,724	3,842	103.2%
売上総利益	26,939	28,297	105.0%
売上総利益率	61.2%	61.2%	+0.0p
販管費 (のれん償却前)	21,604	22,392	103.6%
販管費率	49.1%	48.4%	▲ 0.6p
営業利益 (のれん償却前)	5,334	5,905	110.7%
営業利益率	12.1%	12.8%	+0.7p
出店	31	31	
退店	8	1	
改装	10	30	
期末店舗数	1,270	1,250	

*1：2016/2期 下期より、N9&PGの生産部門（旧ナチュラルライン）を統合。2016/2期 1Q実績には生産部門を含まず。
*2：2017/2期よりミイパーセント事業をヘザー営業部へ移管、アウトレット6店舗をアウトレット営業部より移管。
2016/2期の実績は、上記の移管を反映して記載。

アダストリア単体の損益計算書についてご説明いたします。

連単倍率が1倍近くとなっております。先程の連結業績と説明が重なりますので、一部のみご説明させていただきます。

2016/2期下期より単体に生産部門を統合しておりますので、前年の第1四半期実績には生産部門を含んでおらず、単純比較はできません。

売上総利益率は、61.2%と横這いとなっておりますが、生産部門の実績を調整しますと、連結と同様、+0.5P改善していると考えています。

また、第1四半期の3ヶ月間で31店舗を出店し、1店舗を退店しました。出店のブランド別は、スタディオクリップ・レプシムが5店舗、グローバルワークが4店舗、ローリーズファーム・ニコアンドが3店舗などとなっております。

現在の店舗開発の進捗状況を踏まえますと、期初に発表した通期計画の出店数48店舗を通期では上回ることが予想されますが、追加案件は期末にかけて集中しますので、利益に与える影響は軽微なものだと思われま

海外事業

(百万円)

(海外現法単純合算)	2016/2期 1Q	2017/2期 1Q		
	実績	実績		
			前年比 (円ベース)	前年比 (現地通貨ベース)
売上高	3,204	2,708	84.5%	94.8%
香港	1,875	1,677	89.4%	92.5%
中国	496	454	91.5%	99.2%
韓国	236	181	76.8%	86.7%
台湾	406	395	97.4%	105.4%
シンガポール *1	189	0	-	-
営業利益	▲ 305	▲ 407	-	-
香港	▲ 64	▲ 214	-	-
中国	▲ 96	▲ 109	-	-
韓国	▲ 63	▲ 115	-	-
台湾	▲ 1	27	-	-
シンガポール	▲ 79	4	-	-
出店	9	3		
退店	13	0		
改装	1	0		
期末店舗数	102	107		

- **香港**：中国人観光客の減少の影響を受けて厳しいスタートとなるも、第2四半期からは商品政策の見直しで回復基調にある。
- **韓国**：ブランド本来のメッセージを強く打ち出したことにより、足許では改善傾向にある。

A D A S T R I A

Copyright © 2016 Adastria Co., Ltd. All rights reserved.

11

海外事業についてご説明いたします。

第1四半期となる1-3月は全体的に苦戦し、海外5法人の売上合計で前年同期比84.5%となる27億円、営業利益は▲4億円の損失となりました。

特に香港は中国人観光客減少の影響を受けて厳しいスタートとなりましたが、商品政策の見直しで、4月以降は持ち直しております。

また、韓国も試行錯誤の後、ブランド本来のメッセージを強く打ち出したことにより、足許では好転し、手ごたえを感じております。

連結貸借対照表

(百万円)

(連結)	2015年5月末		2016年2月末		2016年5月末			
		構成比		構成比		構成比	2015年5月末比 増減額	2016年2月末比 増減額
流動資産	37,013	43.3%	45,465	50.3%	40,450	46.5%	+3,436	▲5,015
現預金	6,526	7.6%	19,460	21.5%	9,070	10.4%	+2,544	▲10,389
棚卸資産	15,019	17.6%	15,076	16.7%	16,602	19.1%	+1,582	+1,525
固定資産	48,391	56.7%	44,988	49.7%	46,583	53.5%	▲1,808	+1,594
有形固定資産	12,789	15.0%	11,215	12.4%	11,684	13.4%	▲1,105	+468
のれん	7,357	8.6%	5,493	6.1%	4,947	5.7%	▲2,410	▲546
総資産	85,405	100.0%	90,454	100.0%	87,033	100.0%	+1,628	▲3,420
負債	36,244	42.4%	37,171	41.1%	32,145	36.9%	▲4,098	▲5,025
有利子負債	7,637	8.9%	1,867	2.1%	1,743	2.0%	▲5,893	▲123
純資産	49,161	57.6%	53,282	58.9%	54,888	63.1%	+5,727	+1,605
自己株式	▲408	-0.5%	▲1,824	-2.0%	▲1,835	-2.1%	▲1,427	▲11

- **現預金** : キャッシュフローの改善により、ネットキャッシュは前年同期末比で大幅に増加。
- **棚卸資産** : 前年同期末比110.5%と売上前年比を上回っているが、夏物商戦に向けて準備した在庫であり、シーズン終了在庫の比率は低下している。
- **固定資産** : 有形固定資産・のれんは前年同期末比で減少しているものの、保有株式の株価上昇により投資有価証券が増加。
- **純資産** : 純資産比率は63.1%にまで上昇。

連結貸借対照表です。

主に前年同期末との比較でご説明いたします。

現預金は90億円、有利子負債17億円と、

キャッシュフローの改善でネットキャッシュは80億円以上増加しております。

棚卸資産は166億円と前年同期末比15億円 110.5%と増収率を上回る伸びとなっておりますが、

夏物商戦に向けた在庫であり、シーズン終了在庫の比率は低下しております。

純資産は548億円で、純資産比率63.1%にまで上昇しました。

連結通期予想

変更なし

(百万円)

(連結)	2016/2期			2017/2期 予想						
	実績			上期		下期		通期		
	上期	下期			前年同期比		前年同期比		構成比	前年比
売上高	97,032	103,006	200,038	99,700	102.7%	109,200	106.0%	208,900	100.0%	104.4%
営業利益	8,132	7,872	16,004	8,100	99.6%	8,900	113.1%	17,000	8.1%	106.2%
経常利益	8,324	7,861	16,185	8,200	98.5%	9,100	115.8%	17,300	8.3%	106.9%
純利益	4,156	4,966	9,122	4,500	108.3%	5,500	110.8%	10,000	4.8%	109.6%
ROE	-	-	18.3%	-	-	-	-	17.7%	-	▲ 0.6p
EBITDA	12,272	12,339	24,612	11,900	97.0%	13,000	105.4%	24,900	11.9%	101.2%
減価償却費	3,019	3,375	6,394	2,700	89.4%	3,000	88.9%	5,700	2.7%	89.1%
のれん償却費	1,121	1,092	2,213	1,100	98.1%	1,100	100.7%	2,200	1.1%	99.4%
設備投資			6,364					8,600		

A D A S T R I A

Copyright © 2016 Adastria Co., Ltd. All rights reserved.

13

最後に連結通期予想です。

第1四半期の業績は概ね計画通りであり、4月に公表しております上期・通期の会社計画に変更はありません。

以上、簡単ではございますが、
第1四半期の営業実績および決算概要、上期業績予想の修正についてご説明申し上げます。

業績予想の適切な利用に関する説明

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

その他留意事項

資料内の数値は百万円未満を切り捨て表示し、百分率は元データから算出しております。

A D A S T R I A
—